

後継者の夢奪うTPP撤回を 比例候補の紙智子さん 訴える



比例の
紙智子候補
訴える

津波被害や放射能汚染によって農地を離れざるを得なくなった福島県の米農家の青年が「俺は農業が好きだ。誇りを持って農業を続けたい」と訴えたことが胸に迫ります。

を求めていきます。家族経営でも大規模経営でも成り立つ農業政策を進めます。

原発の新規制基準が8日から施行され、電力4社はそろって再稼働させるために申請しました。とんでもないことです。

福島第1原発の3号機付近は、放射線量が毎時1000マイクロ

しかし、安倍内閣は公約を破りTPP（環太平洋連携協定）交渉参加を表明し、後継者の希望を奪おうとしています。

関税ゼロが原則のTPPに参加すれば、農業生産額を半減させ、今でさえ39%と低い食料自給率をさらに引き下げます。

世界では、飢餓をなくそうと食料増産を呼びかけている時に、日本は、農業をつぶし地域経済を崩壊させ、食料を外国に委ねてしまっている。こんな国にしているのでしょうか。

TPP参加断固撤回

要請を發しました。
京田川は13時に三和地内で河川水位が3・42㍎と、はん濫危険水位（3・30㍎）を越え、14時に3・56㍎と同日の最高水位となり、14時40分に京田川長沼堰水門を閉鎖。その後16時には三和地内で河川水位が3・44㍎と下がりました。

藤島川は15時に藤島地内で3・45㍎と避難判断水位3・50㍎近くとなり、16時に3・59㍎と同日の最高水位となり、はん濫危険水位4・20㍎に迫りましたが、17時に3・40㍎と下がりました。

県が京田川への排水計画

一方、県でも京田川への排水施設整備の計画があり、農村災害対策事業で、鶴岡市・酒田市・三川町の京田川地区において、平成24年度から2カ年計画で、水路改修や排水機場新設計画の調査をおこなっています。

この調査が終了すると、平成26年度に事業採択となり、その後6〜7年くらいかけて工事をおこなう計画とのこと。

市は秋以降に調査

長沼地区には集落側に藤島川、圃場側に京田川が流れており、鶴岡市の計画は、藤島川に排水ルートを整備を考えているとのこと。

県の排水計画は、圃場だけでなく長沼集落内も含めて京田川へ排水するルートも選択肢として検討している。県の調査が今年秋ごろまでは方向性がまとまると聞いており、その結果をみて市は今年度の秋以降に調査に入る予定とのこと。

8日の集中豪雨

藤島庁舎が災害対策本部

8日午前中の集中豪雨により、藤島庁舎では12時50分に警戒体制

から災害対策本部に移行し、長沼と三和地区の消防団（水防団）に



京田川（三和地内）8日14時30分頃



藤島川（長沼上新田地内）8日14時20分頃

鶴岡市消防団藤島方面隊の操法大会 八色木上区が優勝



鶴岡市消防団藤島方面隊（富樫正明・方面隊長）の消防操法大会が7日、藤島体育館駐車場でおこなわれ、小型ポンプ17班が出場しました。

梅雨の季節で雨天が心配されましたが、午

消防操法大会の成績 (7/7藤島方面隊)

第1位	八色木上区
第2位	谷地興屋
第3位	添川1班
第4位	和名川砂塚
第5位	十文字

後1時に開会し、5時終了まで雨に降られず、出場団員はこれまで連日訓練を重ねてきた消防操法の技を競い合いました。

藤俊昭団長から表彰を受けました。優勝班は8月4日におこなわれる庄内大会（県消防学校・三川町）に出場します（写真上・2位の谷地興屋、下・優勝の八色木上区）。

「明るいまちづくり藤島大会」が6月30日、藤島公民館で開催されました。（写真：カモシカクラブのストップの約束）



Nさんから24日早朝「倍増よかったね」と祝いの電話があった。しんぶん赤旗7月3日付は「躍進の秘密は？週刊誌注目」を掲載『週刊朝日』『サンデー毎日』『週刊ポスト』など

どの記事を紹介している。Nさんは『週刊朝日』のコピーも届けてくれた。嬉しかったな。それによると、『がんばれ共産党』意外な「応援団」の見出。野中広

**民報読者Nさんが喜びの電話とコピー
都議選で共産党倍増に週刊誌注目**
「共産党が多少議席を増やしても政治は変わらないは大きな間違」「ダメ野党の中、唯一気を吐く」
—「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇



週刊朝日7月12日号

務、古賀誠、香山リカ（立教大教授、内田樹（神戸女学院大名誉教授）氏らの写真、「意外な応援団」の方々である。野中さんは「政治の最大の役割は戦争をしないこと」、香山さんは「護憲や脱原発など私の考え方と共通する問題については、取材を受ける」、共産党は綱領があり目標も明確、実現不可能な夢かもしれないが、その筋を通す政党、これが支持を受けたとする内田さん



三曲演奏会のこと

第6回山形県三曲演奏会が6月30日、長井市文化会館で開催された。2年に1回開かれるもので、前回の当番は鶴岡市であった。この会には私は第3回の酒田会場から参加させてもらっている。

▼三曲とは箏・三弦・尺八のことで、県内の愛好者が一堂に会するもの。鶴岡からは大型バス1台で参加した。▼前日の午後はリハールだ。リハールから音を出す練習なのだが、もっと大事なことは楽器（箏）の配置と出し入れである。

▼曲目、出番によってどこに置くか。これがどれ位スピーディーにできるかが、スムーズな運営に関わってくる。10数人の若い衆が汗を拭きながらの練習だ。▼そんな最後は、箏が60数本で130人ほどの合奏だから並べるだけで時間一杯なのだ。

の評価。『サンデー毎日』は「ダメ野党の中、唯一気を吐く」共産党と書き、『週刊ポスト』は、「自民が恐れる調査・追求能力」とし、「共産党が多少議席を増やしても政治は変わらない」という考えは大間違い、共産党の10議席は民主や第3極の戦わない野党の数十議席とは破壊力が違うとズバリ。この勢いを参院選でもとお願いしたい。

キレイな和服を尺八衆の紋付き袴が後から囲む型にするのだが、舞台万杯というところ。音出しは明日にして前夜祭へ。▼市長さんと市の文化協会会長さんの歓迎の挨拶をいただいたが、翌日の本番を考えて飲む方は控え目（？）でした。

▼さて130人程の音合わせになるのだが、60数本の調律がある。1本が13弦だからこの音を揃えるだけで一仕事というところ。これができる本場の音合わせだ。▼万を持した百八勢。ダン早くなるのだが、箏より早くなると何回かダメが入るが、開演の1番目が成功だから終演まで12番、それぞれ満足なできばえだ。▼次回がどこであるにしても課題は伝統芸能であるこれら、鶴岡地区でも前回と同じ顔だ。新しい人をどうするか、なのだ。（石川）